

謎多き日本のSFの父



うんの じゅうざい 海野十三と徳島

【徳島県】

海野はまだ全貌を見せていない。

夢のまた夢だった宇宙旅行が現実になつてきている。いまから一世紀も前に、そんな宇宙や未来の世界を斬新な着想の空想科学小説にした作家がいる。

日本SFの父と呼ばれる海野十三は、明治30（1897）年に徳島市徳島本町に代々徳島藩の御殿医だった佐野家に生まれ、幼いころは開業医だった安宅町の祖父の家で育てられる。小学3年生で神戸に引越す、後に早稲田大学理工科で電気工学を専攻、



藩主蜂須賀公の城跡。

卒業後は通信省（現日本郵政・日本電信電話）で無線の研究に就く。そのころから独創的な作品を多彩なペンネームで次々に発表する。海野十三の名前も受験番号が13番だったとか、好きだった麻雀は「運が十き」と答えたとか、縁のある数字だったらしい。昭和7（1932）年に初の小説集『電気風呂の怪死事件』を刊行、『深夜の市長』『地球盗難』『火星兵団』『海底大陸』などタイトルから引込まれる作品ばかりだ。多作家で240の著作があるという海野。いまだ出版されないものも数多く、友人の作家横溝正史が一文を見たという幻の作品『しゃっくりをする蝙蝠（こうもり）』の行方も謎だ。急速に進化した現代、海野の目にはどう映るだろうか。

もうひとつのご当地名物「徳島鯛塩ラーメン」。

醤油とんこつ系で、すきやきのような感覚の徳島ラーメンが有名だが、こちらはその対極にある。

細麺に鯛の骨で取ったコクのある出汁にあっさりした塩がベストマッチ。パリッと揚げた鯛皮もいい。残ったスープにご飯を入れよう。居酒屋のメのラーメンとして人気だ。



堂の浦駅前店
徳島市寺島本町西1-45-1
☎088-652-5112、12:00～（売切れ終了）、18:00～23:00、不定休



徳島中央公園のバラ園付近に建てられた記念碑には、親友だった江戸川乱歩による賛辞が刻まれる。



子ども時代の思い出が残る四所（しよ）神社。道路向かいに碑が残る。

四所神社
徳島市福島2-3-34



海野十三（うんの じゅうざい）

明治30(1897)年～昭和24(1949)年

本名は佐野昌一（さのしょういち）。日本SFの父。奇抜な発想の作品は後世に大きな影響を与えた。未発表作も多く、いまだ謎のベールに包まれる。

徳島県立文学書道館



海野が戦中に綴った日記や江戸川乱歩が寄せた直筆の弔辞など、貴重な資料を展示する。海野の足跡を垣間見られる。

徳島市中前川町2-22-1
☎088-625-7485
9:30～17:00、月休、P有



読みたい一冊

戦争中にはラジオ番組にもなり、人気を集めた海野の短編を集めて文庫本化したもの。ことのは文庫。徳島文化振興財団・徳島県立文学書道館発行。



ひと休みトーク

Tabi no Bookmark

あの人気SF漫画にも大影響!

人気作家や漫画家の中には海野の科学小説を読みふけたものが多い。漫画家の手塚治虫や藤子不二雄、『日本沈没』などの作家・小松左京もそうだ。後世のSF作家たちに与えた影響は計り知れない。また江戸川乱歩、横溝正史などの作家たちとも交流が深い。ちなみに松本零士の『宇宙戦艦ヤマト』の艦長の名前、沖田十三は、新選組の沖田総司と海野十三からとっている。

